

策定にあたって

～ 子々孫々に幸せな暮らしをつなぐ理想郷・梶原へ ～



町面積の91%を森林が占め、標高1,455mにもなる雄大な四国カルストに抱かれた本町は、かつては「土佐のチベット」と呼ばれる山深い町でした。しかし、平成3年の国道197号の改良完了に始まり、国道440号の改良、そして平成22年の地芳トンネル開通により、本町は高知県と愛媛県を結ぶ広域交通拠点となりました。

一方で、町中心部と南部や北部を結ぶ道路の改良率は低く、さらに高低差のある地形に集落が点在し、公共交通の空白地域も多数あり、少子高齢化が進行する中で、独自の移動手段を持たない高齢者等が、日々の買い物や通院等に支障を来す状況にありました。

そこで、特に交通手段の少ない南部の初瀬区、松原区の移動手段確保を目指し、平成23年に「ゆすはら ふっとわーく推進協議会」を設置し、地域住民が立ち上げたNPO法人による過疎地有償運送（公共交通空白地有償運送）を開始しました。運行開始から8年が経ち、初瀬区、松原区の重要な移動手段となりましたが、乗務員の高齢化や担い手不足といった課題も新たに顕在化してきています。また、町内全域を運行する路線バスは、スクールバスとしての機能を中心とした運行ダイヤとなっており、高齢者等一般の利用者には使いづらく、自動車の運転免許を返納する高齢者が増加する中で、公共交通ネットワークの利用者のニーズに合わせた改善は喫緊の課題であると認識しております。

本計画は、上位計画である「第7次梶原町総合振興計画」及び「第2期 梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の理念を共有し整合を図りつつ、目指す将来像、取り組みの基本方針、具体的事業などを取りまとめ、本町における地域公共交通のマスタープランとして位置づけるとともに、実施事業を着実に推進していくための指針となります。

本計画の作成にあたり、アンケートにご協力いただきました梶原学園、梶原高校の児童、生徒、保護者の皆様、高知高陵交通及びNPO 絆のデマンド交通をご利用の皆様、また、関係者ヒアリング等にご協力いただきました町民の皆様をはじめ、事業所や各種団体の皆様に心から感謝申し上げます。

令和3年3月

梶原町長 吉田 尚人

目 次

梶原町地域公共交通計画

第1章：本町の現況	1
第1節：社会的現況	2
1. 本町の位置及び地勢	2
2. 人口及び世帯数	4
3. 本町の主要施設分布	8
4. 通学及び通勤流動	14
5. 消費動向	16
6. 交通安全に関する現況	17
第2節：公共交通の現況	18
1. 本町の公共交通網	18
2. 本町のモード別公共交通	19
第2章：町民・関係者の意識	33
第1節：住民との意見交換	34
1. 地区別意見交換の開催	34
2. 地区別意見交換で出された意見等	35
第2節：関係者へのヒアリング	41
1. 交通事業者	41
2. まちづくりに関連する主体	44
第3節：路線バス・デマンド交通利用者の意向把握	47
1. 実施概要	47
2. 結果とりまとめ	48
第4節：路線バス乗務員へのアンケート調査	61
1. 実施概要	61
2. 結果とりまとめ	61
第5節：児童・生徒及び保護者へのアンケート調査	69
1. 実施概要	69
2. 結果とりまとめ	70

第3章：前提条件の整理	81
第1節：上位計画及び関連計画の整理	82
1. 上位計画及び関連計画	82
2. 本計画に引き継ぐべき事項の抽出	82
第2節：現況における課題抽出	85
1. 公共交通網における課題抽出	85
2. 町民の意識及びまちづくりに関する課題抽出	91
第3節：計画の検討に向けて	93
1. 計画の構成	93
第4章：梶原町地域公共交通計画	95
第1節：計画の基本的な方針	96
1. 計画の区域	96
2. 計画の期間	96
3. 目指す将来像の設定	97
第2節：具体的実施事業	100
1. 具体的実施事業の一覧	100
第3節：計画の推進	128
1. 評価指標による検証	128
2. 計画に参画する主体	131
3. 計画期間内の協議	132
資料編	資料編-1
1. 梶原町地域公共交通会議設置要綱	資料編-2
2. 梶原町地域公共交通会議委員名簿	資料編-4
3. 梶原町地域公共交通会議の開催概要	資料編-5